

# 血液センターから 情報提供・意見交換

令和5年度 血液製剤の需給に係る連絡会議



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

山梨県赤十字血液センター  
学術情報・供給課

## はじめに

全国の血液センターでは、365日24時間体制で、血液製剤を供給していますが、輸血医療の実態を踏まえ、輸送体制の合理化と利活用を図ることが重要な課題となっております。

日本赤十字社では、以下の事業目標を掲げ、供給体制の見直しを行ってきました。

**(1) 定時配送を原則とする。**

**(2) 血液製剤発注システムによる受注を原則とする。**

# 本日の内容

## 情報提供

1. 定時配送に関すること
2. 血液製剤発注システムに関すること

## 意見交換

1. 配送時間等の供給体制に関すること

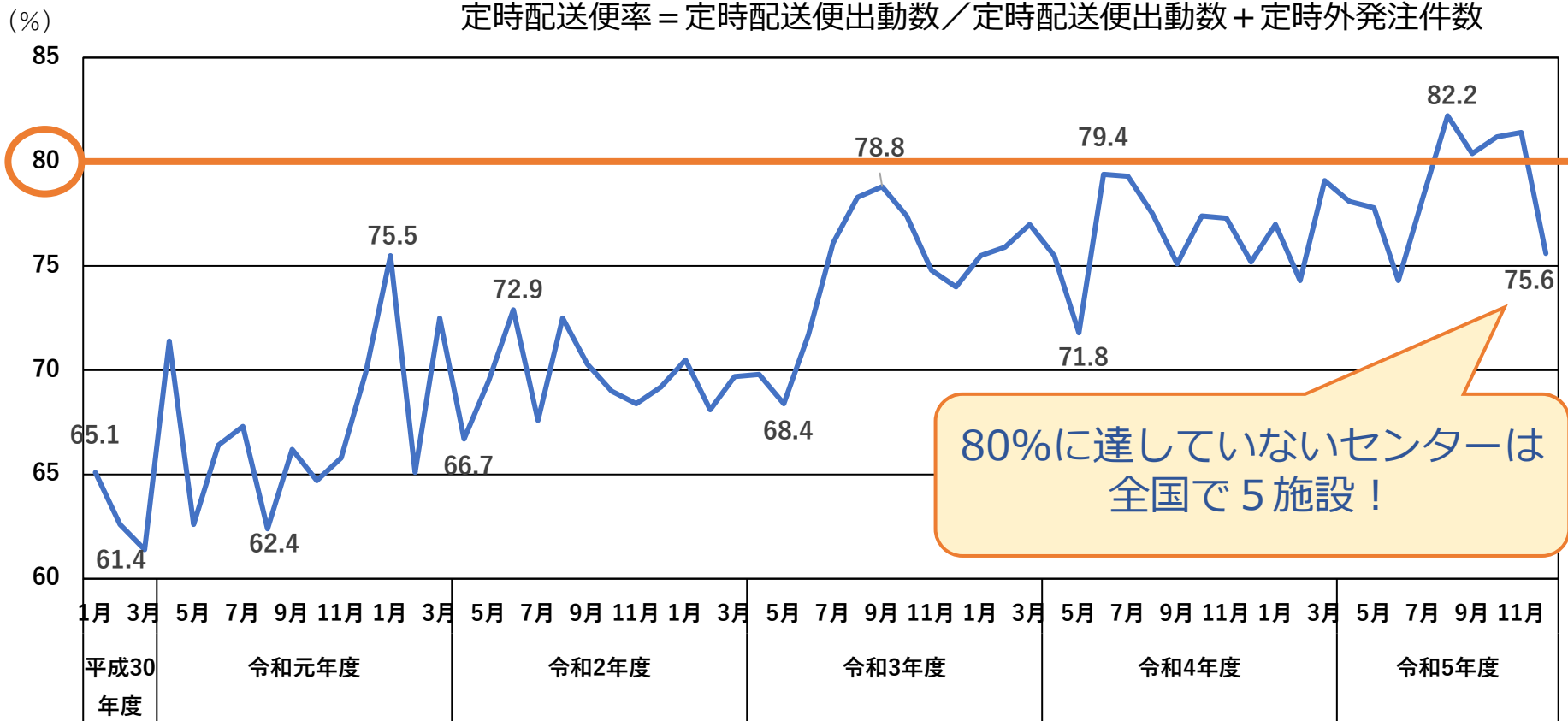
# 定時配送に関すること



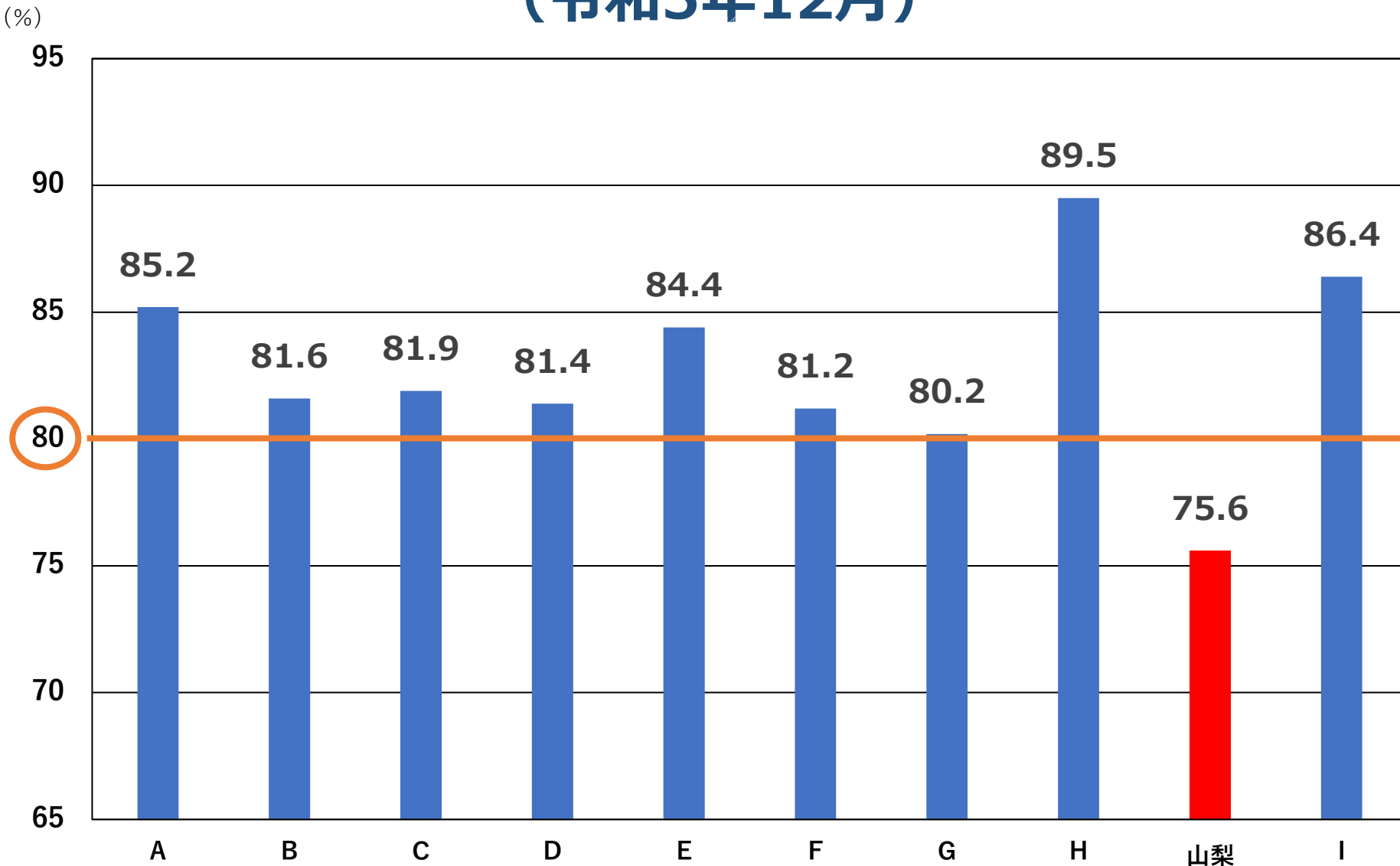
# 定時配送便率の推移

真に緊急を要する発注に対応するため、血液センターに待機する車両を確保できるよう、定時配送便率の向上を目指しています。

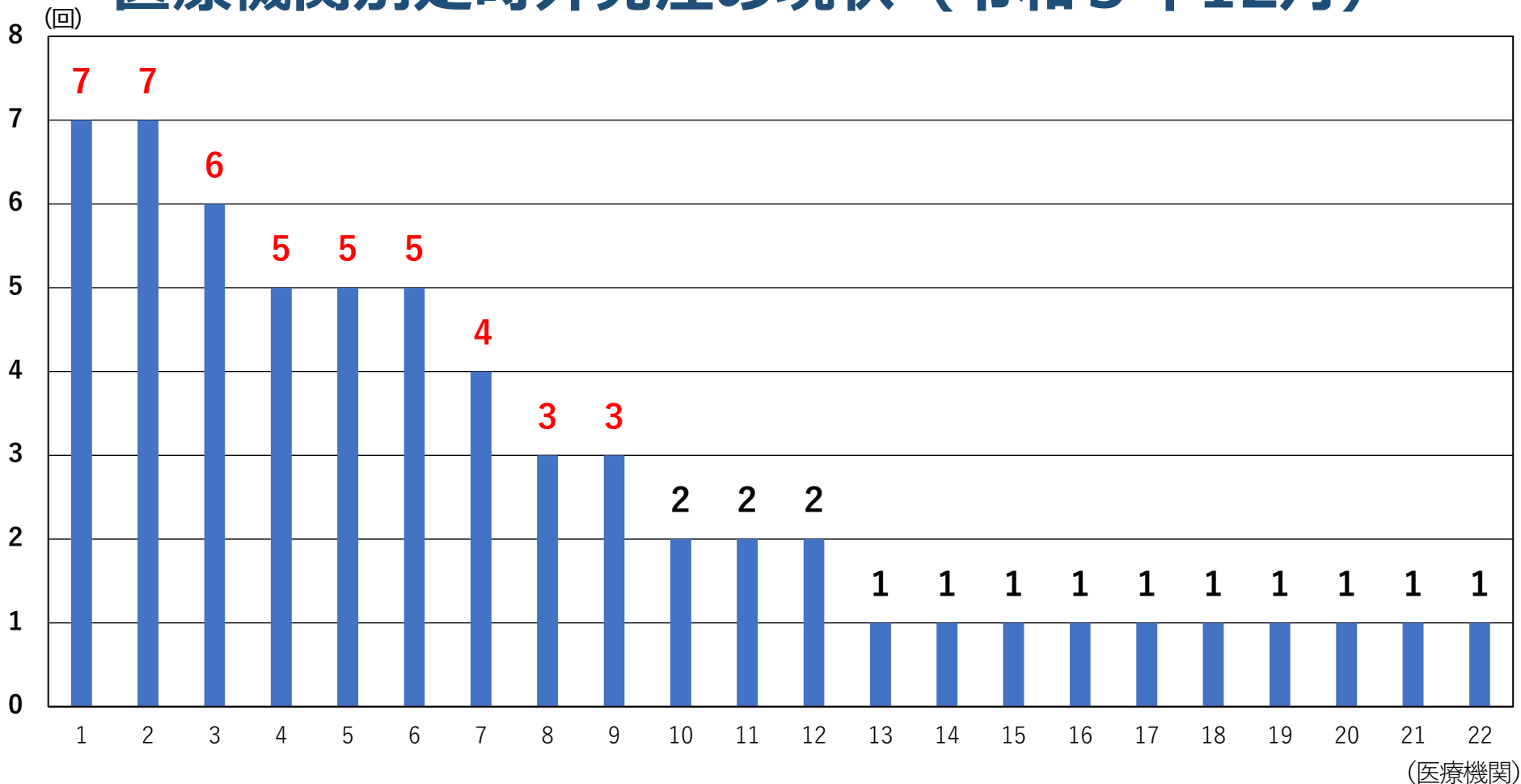
令和5年12月 定時配送便率 **75.6%** (目標80.0%)



# 関東甲信越ブロック定時配送便率の比較 (令和5年12月)



# 医療機関別定時外発注の現状（令和5年12月）



令和5年12月に発注のあった医療機関数は44施設でした。そのうち1回以上定時外発注があった施設は22施設ありました。特に回数の多い医療機関は定時配送便での発注にご協力をお願いいたします。

# 血液製剤発注システムに関すること

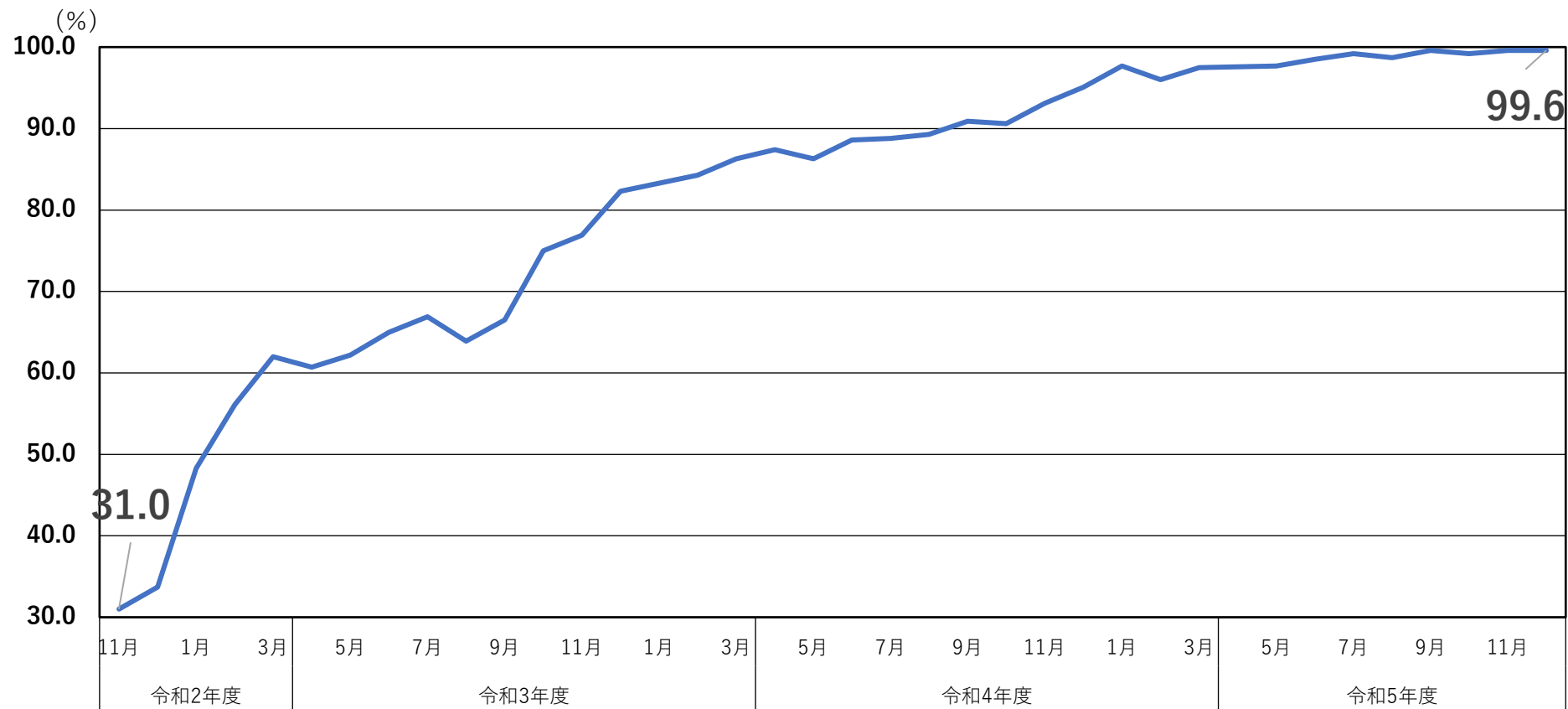




# Web発注率の推移

令和6年4月のWeb発注（血液製剤発注システムを利用した発注）への全面移行に向けて、発注方法の転換を進めてきました。

令和5年12月 Web発注率 **99.6%**



## FAXや電話発注になってしまった理由

- ① Web発注の使い方をまだ指導されていないため
- ② オンコールで自宅から発注しているため
- ③ 院内のインターネット環境が不良のため

等

お願い



当直者には、**事前に教育訓練**をお願いします。

スマートフォンからの発注も可能です。  
必要な際に発注できるよう、事前に**動作確認**をお願いします。

# 血液製剤発注システムの便利な機能のご紹介

院内でご使用の輸血管理システムと連動させ、医師のオーダーから二次元コードを発行し、直接血液製剤発注システムから発注ができます！

## 院内輸血管理システムとの連動

### 方法1

発注情報を含んだ二次元コードをモニター画面上に表示し、WEB発注システムで読み取り発注する方法※

### 方法2

発注情報を直接インターネットを介して連動送信する方法

※輸血管理システムの二次元コード等の表示・連動はシステムの仕様により異なります。各医療機関でご利用のシステム会社にご確認ください



自施設でご利用の輸血管理システム会社にお問い合わせください。

# 配送時間等供給体制に関すること

—事前アンケートから—



## 山梨県の血液製剤配送便

|             |                    |                       |
|-------------|--------------------|-----------------------|
| 定時便         | 午前便                | 10 : 10締切 → 10 : 30出発 |
|             | 午後便                | 14 : 10締切 → 14 : 30出発 |
| 臨時便         | 真に緊急を要する場合<br>随時出発 |                       |
| 緊急便（サイレン走行） |                    |                       |

|      |               |                                 |
|------|---------------|---------------------------------|
| 在庫あり | 赤血球製剤<br>血漿製剤 | 当日発注可                           |
| 要予約  | 血小板製剤         | 午前便：2日前16：00まで<br>午後便：前日16：00まで |
|      | まれな血液型の製剤など   | なるべく早く                          |



## アンケート結果から（１）

午前定期便で血液製剤を届けていただいた時、追加で至急の血液製剤オーダーが入り、配送担当者の方に手持ちの血液製剤があることを確認したうえ、血液センターに電話で「今、配送者がいて、至急のオーダーが入り血液製剤をいただきたい」と連絡した。「午後定期便ではダメですか？」といわれ、至急である旨を再度伝えると、さらに至急の理由・患者状態を聞かれた。マニュアル上、その対応になっているのでしょうか？

### （回答）

緊急配送等の場合は、その都度、患者容態等の確認をさせていただいております。また、全国の血液センター共通の手順書において、緊急持出血液による供給の要件は以下の通りとなっておりますので、ご協力をお願いいたします。

#### 緊急持出血液による供給の要件

- (1)血液センターまたは供給出張所から時間を要し、追加発注の対応が困難な場合
- (2)供給コースに対して、配送要員の確保（待機要員を含む。）が困難な場合

## アンケート結果から（２）

日直業務で午前便を発注した際、午後便定期配送発注予約済み分（主に血小板製剤）を、午前便と一緒に納品していただけるときがある。その場合、一報いただきたい。

### （回答）

午後の配送が定刻とおりに行うことが困難になりそうな場合で、一緒に納品させていただいた可能性があります。

今後は、前倒しで納品させていただく際に、ご了承を受けてから納品するよう職員に周知いたします。

遅い時間帯での配送で嫌な顔をされたことがある。

### （回答）

申し訳ありません。そのようなことが無いよう、指導していきます。今後もお気付きの点があれば、遠慮なくご連絡下さい。改善してまいります。

## アンケート結果から（3）

赤血球製剤を大量に発注・納品した翌日に使用目的の調査が入ります。その調査の活用実績など知りたいです。ほとんどが貧血補正か、手術時の想定外の出血による追加依頼、心臓外科の緊急手術です。

### （回答）

今後の需要予測の参考にさせていただくため、特定の血液型で赤血球製剤を1日に20単位以上納品した場合に問い合わせをさせていただいています。

その目的としては、オペによる大量使用で継続性が無いものか、貧血補正患者が多く継続性があるものかの確認です。

赤血球製剤の安定供給を維持するため、関東甲信越ブロック内の全センターで行っており、得られた情報は、ブロック内の血液型別の献血受け入れ計画につなげています。ご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。



## アンケート結果から（４）

締切時間を遅くし、12：00前後に到着するような便を増やしてほしい。

### （回答）

午前便で出発した車両が帰所するまで、2.5時間から3時間程度を要しています。このため、午前便と午後便の出発時間は4時間程度の間隔が必要なため、間に1便増便することは厳しいと考えられます。

午前便、午後便をともに前または後ろへずらすことは可能なので、今後のご意見を伺いながら対応していきたいと考えています。

医師のオーダーが遅いと発注時間が守れないことがあり、苦慮している。

### （回答）

院内での締切時間等の周知をお願いします。しかしながら、午前便、午後便をともに前または後ろへずらすことは可能なので、今後のご意見を伺いながら対応していきたいと考えています。

## お願い

1. 次の定時便まで待てる発注は、次回の定時便での発注をお願いします。

今回納品があるので「一緒にすませてあげよう」「また次回も来させるのは申し訳ない」という配慮は必要ありません。

2. 血小板製剤等の予約製剤以外は、平日日中帯での発注をお願いします。

土休日は配送の人員が限られているため、突発的に輸血が必要になった場合に限りたいと考えております。

できる限り、休前日または休日明けの定時便で発注いただけるようご協力をお願いします。

定時配送でのご発注、血液製剤発注システムのご利用に  
引き続きご協力をお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

